

## 山鹿順子60才感謝の夕べ

わたくし、こと、山鹿順子8月5日をもって満60才になります。

25才までは生きていないと誓った10代の暗い少女が、いつの間にかここまで生きてきました。人生を引きずりながら模索を続け、やっと長いトンネルを抜け出て、大地に足をつけ大空が見えるようになったのが40才。

北朝鮮で生まれ（植民地主義の落し子）、太平洋戦争中は疎開、敗戦後の貧乏を経験、知恵遅れの子供たちとの出会い、アメリカでオルタナティブな共同体の生活など、いろいろなことがありました。戦争は嫌だ、差別のない平等な社会をという気持ちを持ちつづけてきました。

子供の頃から自分を竹に喩えてきました。細いけど、大雪にも、大風にもしなやかに耐えて上がる竹は、また節があります。そして一節ごとに成長します。わたしもずいぶんたくさんの節を作ってきました。今、60才というひとつの大きな節を作りつつあります。

多くの方々に支えられ、励まされて、ここまで来られたことを感謝したいと思います。また、これから人生の終わりに向けてどう生ききるかという課題があります。人の助けをますます必要とする時期にさしかかります。

いままで人生の儀式らしいものをしたことがないので（葬式もなしにしてもらつもりです）、この節目にパーティを開きたいと思います。感謝の意を表するとともに、これからもよろしくとのお願いをこめて。

手作りのささやかなパーティです。踊り（わたしにとって自己解放の表現）、音楽、おしゃべりなど、楽しい集いにできればと願っています。

ご参加頂ければ幸いです。

具体的には：

日時：1995年8月4日（金）午後6時半から

場所：早稲田奉仕園小ホール（地図同封）

会費：5,000円

服装：ご自分の一番楽で、お好きなもの（ジーパン、タキシード、etc.）

なお、できれば踊りや音楽でお好きなテープ（CDでも）をご持参下さい。

ご出欠のお返事を同封の葉書で7月25日までにお聞かせ下さい。

1995年7月7日（七夕）

山鹿 順子